

いただいたご意見と計画書に対する対応

	いただいたご意見	対応
1	担い手(個人・集団)の確保や育成が重要であると思う。一般的な支援だけでなく、それぞれの地域の実情をつかみ、その地域に合った担い手の育成や確保を進めてほしい。	基本方針①方策の①担い手確保に追記しました。 → P13
2	農地や用排水路等の修理や管理に対する支援を積極的にしてほしい。	計画書に記載のとおり、土地改良施設の適正管理を図ります。 → P14
3	有害鳥獣の対策を積極的に進めてほしい。特に日吉ダム周辺の禁漁区での捕獲強化を望む。	計画書に記載のとおり、農山村振興課と連携し、有害鳥獣対策を進めます。 → P14
4	【重視すべき事項】 多様な人材の育成を図ることも必要。そのためには、移住者との情報共有や地域ぐるみで子育てをする仕組みが必要。農業者を育成するとともに、将来的に地域の主体として農地集積や法人化を目指し、農業・農村を守っていくことが重要。	2.重視すべき事項(1)農を支える多様な人材の育成に追記しました。 → P11
5	【重視すべき事項】 ブランド京野菜の産地が形成されているが、今のブランド京野菜だけでなく、新たな品目の発掘も不可欠であり、優良な産地として確立しなければなりません。良食味米の産地でもあるが、一方で近年の気候変動による高温障害が懸念されており、コシヒカリやキヌヒカリだけの品種では全国各地の特別米に対抗できないことも予想されることから、新たな品種の完成と普及拡大が待ち望まれる。	2.重視すべき事項(2)地域特性を生かし実需者のニーズに応える産地づくりに追記しました。 → P11
6	近年、異常気象や大型台風による災害が頻発している。公的支援をいただきながら営農を継続しているが、続けて被災すると経済的にも精神的にもダメージが大きく、農畜産業を営む上で厳しいことがある。	基本方針①方策の③生産意欲向上の取り組みに追記しました。 → P13
7	現在作成中の南丹市地域創生戦略においては、基本目標1で数値目標の認定農業者数が、2024年度には基準値から20経営体増の120経営体になっている。それに対して、農業振興計画では1年間の差はあるものの、成果目標で認定農業者に加えて認定新規就農者を含むにも関わらず12人増の140人になっており、2つの計画の目標数値に差を感じることから、整合性を図る必要があるのではないかと。	現在作成中の南丹市地域創生戦略と南丹市農業振興計画と調整を図り、目標数値の整合を図るため、農業振興計画の数値を修正しました。 → P12
8	「本市の農業を取り巻く現状」において、現状を把握しやすくするため、より詳細な記述が必要ではないか。	現状等について、農林業センサスデータを用いるなど内容を追記しました。 → P2~8
9	P6の「2018年産米の食味ランキング」は「米の食味ランキング」に、「京都丹波産キヌヒカリ」は「京都丹波産キヌヒカリ」とした方がよい。	修正しました。 → P11
10	P9~10に記載の液肥は、「有機液肥」の方がよいと思われる。	修正しました。 → P15
11	「目標を実現させるための基本方針と方策」において、畜産に関する記述の追加について検討願いたい。	目標を実現させるための基本方針と方策の基本方針①「持続的・安定的な農業経営の確立」に追記しました。 → P12
12	南丹市地域水田農業ビジョンでは、旧町ごとに推進品目を設定されているので、「目標を実現させるための基本方針と方策」基本方針③「消費者ニーズに応える産地力の強化」の中に、この推進品目を反映させはどうか。 【八木町】京みず菜、九条ねぎ、WCS用稲、京の輝き 【園部町】黒大豆、小豆、伏見とうがらし、紫ずきん 【日吉町】黒大豆、壬生菜、万願寺とうがらし 【美山町】小豆、大豆、小麦、WCS用稲、酒造好適米、加工用米、そば、飼料用米、紫ずきん・京夏ずきん、伏見とうがらし	目標を実現させるための基本方針と方策の基本方針 基本方針③「消費者ニーズに応える産地力の強化」に追記しました。 → P15